

千曲川・橋梁の今昔 その3

千 曲 橋



左岸の千曲橋緑地と上田千曲長野自転車道（左端）

橋の両端にそびえ建つ35mのタワー。迫力ある斜張橋が特徴の千曲橋は、宿場町の街並みが残る「蔵の街」稲荷山と市中心部を経て、「あんずの里」森・倉科を結ぶ幹線のランドマークとなっています。

左岸は快適な自転車道が走り、市民が集う都市公園に。右岸の杭瀬下地区では千曲市体育館が平成30年（2018年）9月1日に開館し、さらに市本庁舎が2019年夏に使用開始予定です。山並と調和した景観の千曲橋は、将来にわたり地域の発展と交流に寄与していくことが期待されます。

千曲建設事務所が管理する7橋梁を紹介するシリーズ、第3回目は千曲橋です。

1 橋梁データ

路線名 (場所)		一般国道403号(平成5年(1993年)から) 現橋開通当時は主要地方道更埴明科線 (左岸 千曲市稲荷山、右岸 千曲市杭瀬下)	
現橋	完成年月	平成8年(1996年)7月	
	橋長・幅員	402.4m ・ 14.3m~18.4m	
	構造	主径間 連続ラーメンPC箱桁橋 (桁・橋脚一体化構造)	側径間 PC斜張橋 (塔から斜めに張った ケーブルで桁を吊る構造)
旧橋	最初の橋の完成年	大正初期(推定)	
	完成年月	昭和8年(1933年)3月	

2 木橋から永久橋架設へ 地域の要望が実る



千曲川護岸工事
(写真集 千曲川のほとり 平成11年8月
発行 監修者近藤明氏(杭瀬下・新田の歴史
を学ぶ会会長)

大正から昭和初期の木橋の頃、千曲橋も千曲川に架かる他の橋と同様に、幾度となく水害に遭ってきました。千曲川護岸工事は、大正7年(1918年)に着工。23年の歳月をかけて、昭和16年(1941年)に現在の堤防が完成しました。

水害に強く流失しにくい橋を架設し、同時に人家を守るため、強固な堤防は重要です。土砂の盛土、杭打ち、柵の取り付け、廉朶※、藤籠等、全て人力で多くの工程を必要とする大工事でした。

※廉朶(粗朶) 直径数センチメートル程度の細い木の枝を集めて束状にした資材。細くしなやかな柳などが用いられる。

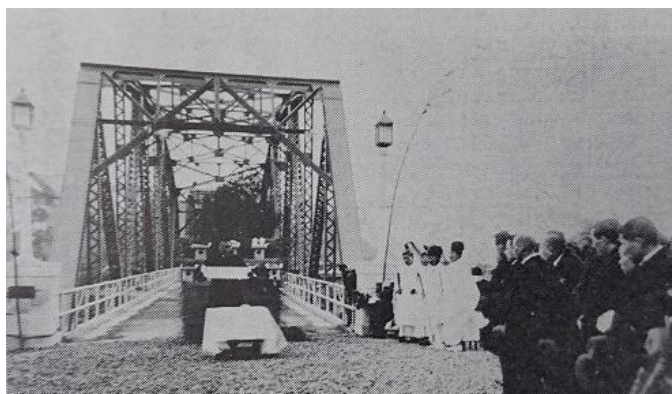
木橋から永久橋への架け替え運動は、大正橋とともに昭和2年に始まりました。千曲橋・大正橋架替期成同盟会には更級郡稲荷山、八幡、桑原、更級、上山田、塩崎の各町村、埴科郡からは屋代、

杭瀬下、埴生、五加、戸倉の各町村が参加し、町村長が連署した請願書を県議会に提出するなど、16回にも及ぶ県への熱心な要望活動が行われました。

架替事業が決定したのは昭和5年（1930年）、着工は2年後でした。折しも1929年に米国から広がった世界恐慌の影響を受け、昭和恐慌下にあったことから、国や県の失業救済対策、救農施策としても位置づけられました。

昭和8年（1933年）3月、旧千曲橋が竣工。

三角形に組み合わせた骨組みで橋桁を造る、力強い鋼トラス橋で流失の心配もなくなり、埴科、更級両郡の交流が一層盛んになりました。



千曲橋竣工記念式典 稲荷山側（昭和8年3月28日）
（更埴市史刊行会蔵）（更埴市史第三巻近・現代編）



旧橋全景 連続する7つのトラス（左岸から）

千曲橋は完成後50年を経過する頃から、床版下面コンクリートや歩道舗装のひび割れなどの損傷が目立ち始めました。老朽化に加えて、幅員が狭く高さの制限があったことから、交通量の増加に伴って交通渋滞発生箇所にもなっていました。

旧橋入口のトラス上部には「路端部の高さ3.1m 注意して通行ください」と表示がされていました。



↑ 橋梁点検。床版下面コンクリートの状況を調査（昭和60年）

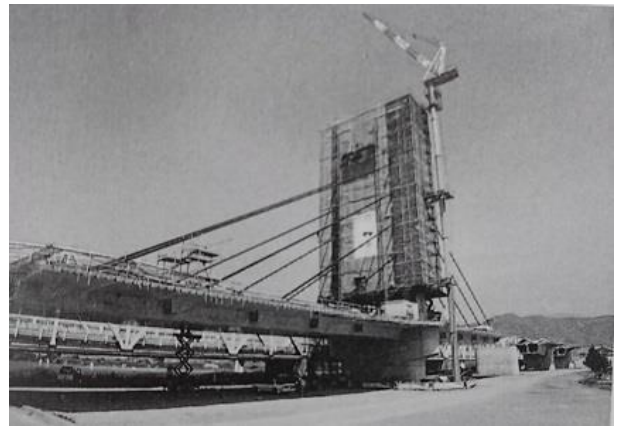


← 右岸からの旧千曲橋。左（青色）は県営水道の水道橋（昭和60年）

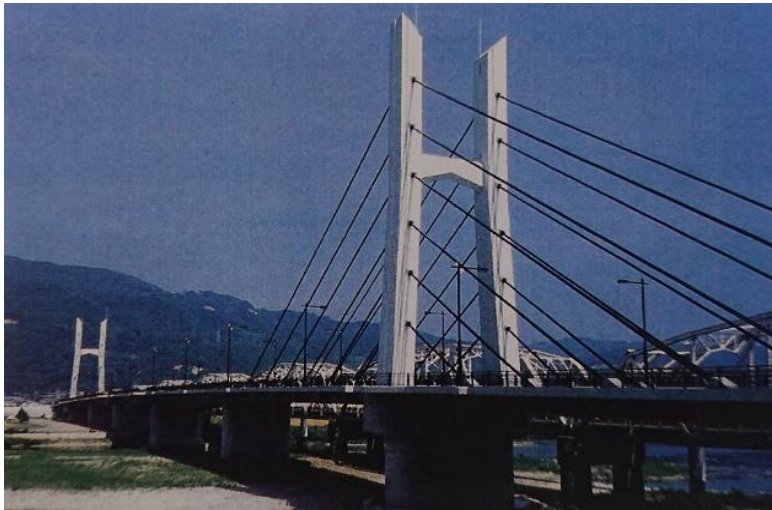
3 市のシンボルとして 新千曲橋完成

新しい千曲橋の着工は平成2年（1990年）。老朽化した橋の架け替えと、都市計画街路（当時は主要地方道更埴明科線）を一体的に整備する都市計画街路事業として行われました。

下流に既設橋梁と県企業局川中島水道管理事務所設置の水管橋があり、3本の橋がまちまちに橋脚を造ると洪水の原因ともなることから、桁厚をできるだけ薄くし、その上でシンボリックなものにするため、当時、全国的にも珍しいとされた両翼に2径間連続斜張橋を配置する工法が採用されました。



↑ 建設中の千曲橋
（長野県更埴建設事務所記念誌 平成7年3月）



完成した千曲橋（平成8年） 奥に見えるのは撤去前の旧橋
道路業の効果事例集（長野県土木部道路建設課 平成9年7月）



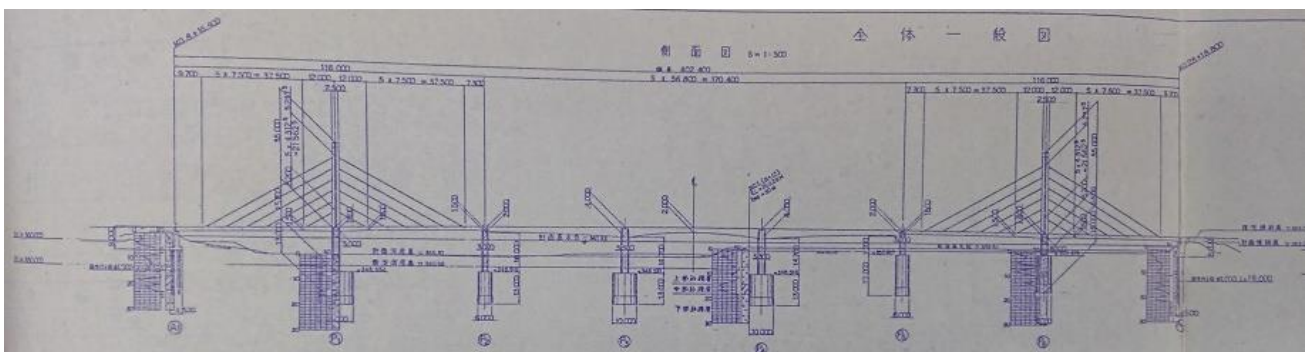
↑ ライトアップされた千曲橋。（平成8年）
照明は県と千曲市の共同で設置された。
平成23年3月の東日本大震災以降休止中。

新しい千曲橋の完成は、長野冬季オリンピックを1年半後に控えた平成8年（1996年）7月。平成10年（1998年）2月7日からの大会期間中は河川敷が観客用駐車場の一つになったことから、千曲橋はNAGANOの玄関口に。当時の建設業界誌から、「長野冬季五輪を彩る名橋」と紹介されました。

夜間にはタワーのライトアップが行われ、姨捨から望む善光寺平の夜景に花を添えました。このライトアップは、平成9年（1997年）5月、社団法人（現 一般社団法人）照明学会東海支部長から照明優秀施設支部長奨励賞を受賞しました。



↑ 千曲橋開通式祝賀パレード（平成8年）
道路業の効果事例集（長野県土木部道路建設課 平成9年7月）



側面図（千曲建設事務所橋梁台帳）



左岸（稲荷山側）から千曲橋の歩道を渡る。待避所スペースには、あんずの花と棚田の月のレリーフ。杭瀬下方面に建設中の千曲市本庁舎が見える。（平成30年8月）

新しい千曲橋の完成により、通勤時間帯等の渋滞は解消され、待避所スペースも備えた広く明るい歩道は、朝夕に自転車通学する学生にも好評で、地域の人たちからもシンボルとして親しまれています。また、通過車両は1日11,802台と管内の県管理道路では有数の交通量となっています。

※H27年交通量（24時間国道403号千曲市稲荷山）

4 自転車道から広がる交流

斜張橋を望むサイクリングロード上田更埴（現 千曲）自転車道（延長18.1km）は昭和57年（1982年）に完成、サイクリングをはじめ通勤、通学にも活用されています。

千曲建設事務所では、自転車道を地域活性化や誘客にさらに活用しようと、一昨年「科野さらしなの里サイクリング推進委員会」を立ち上げ、旅館経営者や地域振興に熱心な方、市や県機関が話し合いながらサイクリングマップや案内標識の作成、設置に取り組んでいます。

千曲橋と自転車道は、千曲川ハーフマラソン、千曲川一輪車チャレンジレースなど多くのスポーツイベントに活用され、一帯は千曲橋緑地とともに県民のスポーツ、リフレッシュの拠点になっています。



旧千曲橋をくぐって、上田更埴（現千曲）長野自転車道線が開通（昭和57年3月）（建設のあゆみ（長野県土木部）昭和59年5月）



第12回千曲川一輪車チャレンジレース（平成29年11月）写真提供 千曲川一輪車チャレンジレース実行委員会（Café自転車屋）



第30回千曲川ハーフマラソン（平成29年5月）10km地点 千曲橋を渡り自転車道を南へ

千曲川サイクリングロードのマップは、千曲建設事務所ホームページからダウンロードできます

<https://www.pref.nagano.lg.jp/chikuken/koho/ko-susyoukai.html>

次回は大正橋です。（掲載してある白黒写真の転載は禁止します）

